

結審をむかえるあたり最後に私の思いを述べさせて頂きますのでどうかお聞き下さい。

構造改革という名の下に理不尽な配置転換をされた結果、私は36年間という長い時間を掛けて培ってきた技術を活かす仕事を一方的に奪われました。そして今までの技術を活かすことが出来ない飛び込み営業職へと配転されたのです。このような理不尽な配転に対して憤り、社員をまるで物のように扱うNTTに心底怒りを覚えました。

仕事を誇りに思い、しかも会社のために頑張って働いてきた結果が、このような不当配転かと思うと、その悔しさは筆舌に尽くしがたいことを是非とも理解して欲しいと思います。

また私は6年近い单身生活をしてきましたが、高血圧、不整脈、痛風の病気を患っているため、会社の用意した社宅で体調を崩し、もし倒れた際には、誰も気が付いてくれないのではという不安がありました。そして妻も手足に痺れを訴え、地元の病院に通院生活を送っています。夫婦互いに年齢的におとろえ、本当であれば支え合って生活をしていくのが本当の姿であると思います。しかし家族の絆すら本件配転によって切り裂かれようとしています。合理化という名の下であれば、单身赴任も当たり前ということがどれほど異常なことであるかも気が付いて欲しいと思います。

私はこの3月31日で42年間勤めたNTTを定年退職します。しかしついに地元沼津には戻れませんでした。NTTが50才以上の人と同じように在籍出向させてくれているならば、6年間の单身生活もなく、家族や地域からもはなれることもありませんでした。

労働者である私達が、家族と安心して暮らせる生活を送れるために、裁判所には「異職種遠隔地配転」を強行したNTTに厳しい判決を下して頂けると思っています。そしてそのような判決が、不当配転に屈せず、今まで裁判で戦ってきた私の最後のお願いです。

私の気持ちを聞いて頂きありがとうございました。